

マルクス  
エンゲルス  
全 集

Mars-Engels

1839~1844

1

# マルクス=エンゲルス全集

## 第1巻

大内兵衛・細川嘉六

監 訳

マルクス＝エンゲルス全集

第1巻

1959年10月20日第1刷発行  
1972年7月20日第15刷発行

定価は函に表示  
してあります

|     |    |      |   |   |
|-----|----|------|---|---|
| 監訳者 | ◎大 | 内    | 兵 | 衛 |
|     | 細  | 川    | 嘉 | 六 |
| 発行者 | 小  | 林    | 直 | 衛 |
| 印刷者 | 山  | 元    | 正 | 宜 |
| 発行所 | 株式 | 大月書店 |   |   |

会社

東京都文京区本郷 2-11-9  
電話 (813) 4651 (代表)  
振替 東京 16387

三晃印刷・関山製本

(K)

## ドイツ語版序文

ドイツ社会主義統一党中央委員会の決定にもとづいて、カール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルスの著作がドイツ語で出版されるということは、政治的・科学的に重大な意義のあるできごとである。このことによって、はじめ、マルクスとエンゲルスの祖国であるドイツにおいても、このドイツ人民の最良の息子たちの終生の巨大な事業が、その全体の姿で、勤労者たちの手のとどくものにされるのである。

ドイツ語版は、ソ連邦共産党中央委員会付属マルクス・レーニン主義研究所編集のロシア語新版にわずかばかり変更をくわえただけで、これによって、ソヴェト版の序文で述べられた編集、配列、範囲についての原則は、ドイツ語版にもあてはまる。

ドイツの労働者階級と全ドイツ人民は、独創的な思想家であり灼熱の革命家であるカール・マルクスとフリードリ

ヒ・エンゲルスが彼らの祖国からでたということを、彼らのほりとする権利がある。その活動によってあのように大きな影響を人間社会の発展にあたえたドイツ人は、彼らのほかにはなかった。彼らは世界史の最大の成果を人類におくった。すなわち、プロレタリアートといっさいの被抑圧者との解放の科学、共産主義社会建設の科学をおくったのである。

マルクス主義は、ドイツ人民のもっとも高価な文化財である。われわれは、この偉大な遺産の適法な相続人である。(X)このことから、われわれには、このうえなく偉大な息子たちがわが国の人民にさししめた道をより早く前進できるように、この遺産を注意深く保存し、純粋な真正な姿でわ

が国の人民に手渡すという崇高な義務が生じる。

この大きな任務のために、マルクス・エンゲルスの著作のこのドイツ語版は、役だつのである。これによって、ドイツ最大の思想家であり闘士であるこの二人にたいする、またドイツの人民とドイツの労働者階級にたいする、そしてまた国際労働運動にたいする、名誉ある義務がはたされるのである。

わが国の勤労者、党員、ことに学習し研究する青少年には、このドイツ語版によって、つきることのない知識の宝庫がひらかれ、この二人の精神的巨人の思想的富の全部を

学び知る可能性があたえられる。

わが国の科学者たちは、どの分野で働いているにしても、この版のなかに、包括的な科学的認識や革命的な諸発見や未来をさししめす大胆な着想と激励が充満しているのを見いだす。マルクス・エンゲルスの著作の徹底的な研究は、彼らをたすけて、研究を妨げる諸現象やふるくさい諸見解を克服させ、反動的なブルジョア・イデオロギーにたいしてイデオロギー的攻勢を強化させ、また自分自身の創造的な仕事によってマルクス・レーニン主義科学のいっそうの前進に寄与させるであらう。

これらの人々はみな、社会主義建設をめざすわれわれの闘争のために、社会主義的民主主義の完全な展開、労働者・農民権力のいっそうの強化のために、そして民主主義と社会的進歩にもとづくわが祖国の平和的再統一のために、この思想財産をくみつくさなければならぬ。

マルクス・エンゲルスの著作の出版は、ドイツ労働者階級の階級意識の高揚のために、勤労者の社会主義意識の育成とプロレタリア国際主義の精神における彼らの教育とのために、一つの重要な寄与をなすであらう。そのうえに、それは、ドイツの人民にその歴史の偉大な革命的伝統を知らせ、ドイツ人民を正義のたたかいにおいて強力にすることに寄与するであらう。

マルクス・エンゲルスの著作は、読者に、科学的学説をつたえると同時に、マルクス主義科学の本質的特徴である革命的・戦闘的精神をつたえるにちがいない。マルクス主義は、「時代おくれになる」ことはありえない。なぜなら、(X)マルクス主義は、最終的な不変な公式の硬化した体系ではなく、創造的研究と積極的行動への手引きだからである。

その意味で、ウラジミール・イリイチ・レーニンは、マルクス主義を、歴史的情勢の変化に応じて、さらに発展させたのである。そして、マルクス主義諸政党の活動は、この人間精神の巨大な建築物に、たえず新たな認識をつけくわえるのである。科学的発見の一つ一つによって、マルクス主義は、ますます豊富にされ、補完され、同時に、たえずくりかえし確証されるのである。この点にこそ、人類の発展史にとってのマルクス主義の偉大な意義、その不滅の生命力、そしてその不断の現実性はあるのである。

マルクスとエンゲルスとのかげぬけた偉大さは、なによりもまず、科学者としての彼らの業績のうえに立っている。彼らは、弁証法的・史的唯物論の完成によって、自然と社会との客観的諸発展法則を発見した。それは、人間社会がそれまでに到達したすべての実証的知識の批判的加工の結果であった。マルクスとエンゲルスは、完全にプロレタリアートの階級的立場に身をおくことによって、ブルジョア

的先入観と階級的制限とを克服し、彼らの革命的結論をひきだすことができた。弁証法的唯物論の基礎づけによって、マルクスとエンゲルスは、「もっとも包括的な、もっとも内容豊富な、もっとも深遠な、発展の学説としての」(レーニン)弁証法とむすびついた首尾一貫した唯物論的世界観をつくりだしたのである。

思想の歴史においてはじめてマルクスとエンゲルスは、弁証法的唯物論を社会生活の諸現象のうえに拡張した。そして、社会の精神的・生活は、その物質的生活により、すなわち物質的財の生産様式によって規定され、政治的發展は經濟的發展によって規定されるという基礎的な認識に到達した。彼らは、新たな、より高い社会秩序は、合法的な經濟的發展から生じるのであって、思想家の頭や、勝手な考案や構想から生じるのではないということを認識した。マルクスとエンゲルスによるこの認識は、人間の歴史を一つの統一的な、そのいっさいの多様性と矛盾性を通じて合法的則性をつらぬく過程として、科学的に研究することを可能にした。

(XII) マルクスとエンゲルスは、社会の經濟的發展が、階級のない原始共同体の崩壊、搾取階級と被搾取階級とへの社会の分裂にいたらせ、そして種々の歴史的形態をもつ階級社会を生みだした、ということを証明した。この敵対的な階

級社会では、階級闘争が社会發展の内容をなしている。階級闘争は社会的進歩の原動力であり、より高い社会秩序への上昇のための推進力である。

プロレタリアートの經濟的・政治的・イデオロギー的階級闘争は、おそかれはやかれ、不可避免的に、政治權力のための闘争を、プロレタリアート独裁の樹立を、資本主義の廃絶を、そして社会主義の建設を、もたらさなければならぬ。

比類のない業績において、マルクスとエンゲルスは、彼らの世界観の立場から、科学のあらゆる部門を新たに照らしだし、前進させた。そこで、彼らの全集は、經濟学、哲学、歴史、労働者党の政策と戦術や軍事科学の諸問題についての彼らの科学的著作のほかに、言語学と法学についての、文学と芸術についての、数学、物理学、化学、生物学についての、技術、農学、医学についての、人類学、民族学、原始史などについての、多数の大小の労作や散在する多くの基本的な意見の表明をふくんでいる。

弁証法的・史的唯物論は、人間思考の最高の成果であり、科学における、哲学における、そして世界の認識における真の革命であった。

唯物史観の認識は、現存の資本主義社会の經濟的基礎を研究することを必要にした。この課題のために、カール・

マルクスは、彼の名著『資本論』をささげた。そのなかで、彼は、資本主義の経済について、説得力ある事実的材料で例証された全面的な記述をあたえ、資本主義の客観的にはたらく経済的諸法則を暴露する。剰余価値法則において、マルクスは、資本主義の一般的運動法則を発見した。この法則から、彼は、プロレタリア革命の勝利による資本主義の解体、労働者階級による指導のもとでの社会主義社会の樹立の不可避性を証明した。

マルクスとエンゲルスは、また、搾取され抑圧される人民大衆の先頭に立って資本主義の支配をくつがえして、これにかえるに社会主義の支配をもつてすることのできるあの社会的な力、すなわち近代産業プロレタリアートをも発見した。

(XIII)

マルクス主義諸政党の綱領と実践、政策と戦術は、はじめからこれらの認識にもとづいている。二〇世紀は、実践におけるマルクス主義学説の正しさを最終的に確認した。

世紀の転回とともに帝国主義とプロレタリア革命との時代がはじまった。記念すべき一九一七年には、ロシアのプロレタリアートが資本主義の支配をくつがえし、プロレタリアートの国家権力を樹立し、社会主義の建設をはじめた。今日すでに社会主義は、ソ連邦や中華人民共和国のような世界的強国をはじめ多くの国々を結合している世界体制と

して存在している。

マルクスとエンゲルスが一九世紀の四〇年代に、はじめ、プロレタリアートの歴史的役割を告げたときには、この階級は、もっとも進んでいた諸国では、階級闘争の戦場において、最初の独立の、まだ手さぐりの数歩をふみだしていた。すなわち、イギリスではチャーティスト運動、フランスではリヨンの暴動、アメリカではナショナル・レフ・オーマー〔国民農業改革派〕の運動として。ドイツでは、プロレタリアートは、一八四四年のシュレージエンの織布工暴動で、はじめて登場したばかりだった。

ユートピア社会主義者たちは、プロレタリアートを、ただ悩んでいる受身の大衆としてながめた。そして、考案された社会主義体制を実現し、貧困と苦痛からの解放によってプロレタリアートを幸福にするように、富者たちに呼びかけた。ユートピア的労働者共産主義、すなわちフランスのカベール派とか、ヴィルヘルム・ヴァイトリングをその理論家とするドイツ義人同盟におけるようにと、労働者階級の少数の進歩的代表者の見解のうちに形成されたそれは、たしかに、共産主義のための労働者の闘争の第一歩をふみだしていた。とはいえ、この共産主義のユートピア的性格のために、労働者の行動についての考え方は、ブルジョア

ジにたいするプロレタリアートの和解のない階級闘争からは遠くはなれたものとどまつた。そして、えらばれた英雄的闘士の小集団の、大衆からは遊離した秘密結社に帰着した（ブランキ主義）。

はじめ、マルクスとエンゲルスがプロレタリアートに、資本主義の墓掘人、社会主義の建設者としてのその歴史的役割への科学的洞察をあたえた。マルクスとエンゲルスは、近代産業プロレタリアートは生産手段の社会的所有のため、の闘争において、唯一の活動的な階級として、生産手段のどのような私的所有によっても妨げられない、ということをしめした。彼らは、さらに、プロレタリアートは、資本主義の大生産によって団結させられ、訓練され、組織され、こうして資本主義の転覆のための闘争と社会主義の建設において指導的な役割をはたす能力をあたえられる、ということをしめした。

プロレタリアートの歴史的役割の頂点として、マルクスとエンゲルスは、プロレタリアートの独裁をみとめた。すなわち、それは、勝利した労働者階級がすべての勤労者を自分のまわりに集結して無階級社会の建設を組織することをたすける民主主義の最高形態なのである。

このようにして、マルクスとエンゲルスは、科学的共産主義の不動の世界観の基礎をつくりだして、プロレタリア

ートにその解放闘争のための完全に包括的で科学的なイデオロギーをあたえたのである。

プロレタリアートの指導的役割についてのマルクス主義学説は、歴史の経過のうちに、たえず、意義と内容をくわえてきた。帝国主義とプロレタリア革命との時代については、レーニンが、ブルジョア民主主義革命におけるプロレタリアートの主導権の学説、社会主義労働運動と植民地の反帝国主義運動との結合の学説、プロレタリアートと勤労農民との同盟の学説、プロレタリアートの独裁の学説を、さらに発展させた。

マルクスとエンゲルスにとっては、科学は、自己目的ではなく、「歴史的に運動する革命的な力」（エンゲルス）であった。彼らは、なによりもまず革命家であり、革命家にとっては、世界を变革することこそ肝要だったのである。ただ彼らの闘士的な本性、抑圧されたものの事業への献身だけが、彼らに巨大な科学的業績を完成させたのである。

彼らの死にいたるまで、彼らの最大の注意は、実践的・革命的闘争に、労働運動の組織と指導に、マルクス主義政党の形態でのプロレタリアートの政治的階級組織の創造にむけられていたのである。

歴史的な『共産党宣言』、あの科学的共産主義と近代労



働運動との出生証書において、マルクスとエンゲルスは革命的労働者党の綱領の基礎をつくりだした。

(XV)

共産主義者同盟のために、彼らは、最初のマルクス主義的組織規約を書きあげ、党の構成と活動方式のために民主的中央集権の理念を基礎づけた。党を大衆運動から隔離する宗派的閉鎖や労働者党における指導者崇拜を彼らは仮借なく攻撃した。

マルクスとエンゲルスは、労働者党にプロレタリア階級闘争を指導する能力をもたせるために、労働者党の戦術にはとくに身をいれた。

レーニンは、プロレタリアートの党、プロレタリアの階級闘争における党の役割、党のイデオロギー、組織、戦術についてのマルクスとエンゲルスの基本的見解を、帝国主義とプロレタリア革命との時代における新たな諸条件と諸任務とのために、さらに発展させて、新しい型の党の学説を基礎づけた。

マルクスとエンゲルスの活動は、国際労働運動の全体におよんでいた。しかし、彼らの闘争生活のすべての段階を通じて、彼らは自分たちがとくにドイツとドイツの労働運動とにむすびつけられているのを感じていた。真に愛国的な思想と行動が、このドイツ最大の科学者であり革命家である二人の生涯をみたしたのである。その明白な一例

を彼らは一八四八―四九年にしめした。そのとき彼らは、民主的な基礎に立つドイツの国民的統一のために最前線ではげしく苦闘したのである。

歴史的諸事件にたいする深い理解を証明している『新ライオン新聞』紙上の彼らの革命的な諸論文は、ドイツ史上の警世の一実例、名誉の一ページであったし、いまなおそうである。これらの論文は、ドイツの国民的統一と民主的発展の必然性との思想を、科学的社会主義の創始者たち以上に断固として代表したものは、誰もいなかったということを経証明している。

マルクスとエンゲルスは、ドイツの発展しつつある労働運動の、もっとも誠実な援助者となり、もっともよい教師となつて、そこで大きな尊敬と深い信頼をうけた。新たな革命的高揚とともに一八六四年に創立された国際労働者協会で、マルクスは、ドイツ担当の書記として、ドイツの党とその指導者たちとに理論的および実践的諸問題における包括的な援助をあたえた。

(XVI)

仮借ない激しさと頑強さをもつて、マルクスとエンゲルスは科学的社会主義のあらゆる歪曲と偽造とにたいしてたたかった。すなわち、ブルードン主義者の小ブルジョア的社会主义にたいして、イギリスの労働運動における労働組合主義にたいして、またバクーニン主義者の無政府主義

にたいして、たたかった。ドイツでは、ラッサールとその追隨者たちとのあいまいな日和見主義の見解は、マルクス主義の旗のもとでのドイツ労働運動の統一における主要な障害であった。

『ゴータ綱領批判』では、マルクスはラッサール主義を断固としてしりぞけた。同時にそこで、彼は、とくに資本主義から社会主義への過渡期と共產主義社会の二つの段階とについて、一連の基本的な理論的認識を展開した。

エンゲルスは、彼の著作『オイゲン・デューリング氏の科学の変革』によって、その当時ドイツ社会民主党内に追隨者を見いだしていたデューリングの混乱した小ブルジョアの見解を打ちくだいた。そして、そのさい、もう一度包括的に弁証法的唯物論の根本思想を説明した。

第一インタナショナルが解散しても、国際労働運動におけるマルクスとエンゲルスの指導的役割は、すこしもその意義を失わず、むしろ労働運動そのものの強化につれてさらにその重要性をました。マルクスとエンゲルスは、いまや、すべての国々における強力なプロレタリア政党の創設を歴史的な主要課題として提起し、この課題の解決にあたって各個の国の経済的および政治的特殊性を顧慮することにつとめた。そのさい、彼らは、ベーベルとリープクネヒトとに指導される社会民主労働者党を「彼らの」党とみな

していた。「なぜならば」エンゲルスが書いていたように「じつに、ドイツの党ははじめからわれわれの理論的主張にたよって発展したからである。」

ドイツの反動的支配者たちが、社会主義者取締法の助けをかりて、力づくで膨張する労働運動を抑圧しようとして試みたとき、マルクスとエンゲルスは助言と行爲とをもって助けにむかい、この困難な状態にあった指導者と黨員に革命的な道をさししめし、ドイツの労働者の勇氣と自信とを強めた。この英雄的なたたかいは、ドイツの労働者階級の勝利におわった。そして、これらのたたかいでドイツの労働者階級はますます強固にマルクス主義の地盤のうえに立ち、マルクス主義は十分な勝利をえたのである。この試練のおかげで、ドイツ社会民主党は、力の結集と形成の時期に国際プロレタリアートの先頭になつて前進した。というのは、ドイツ社会民主党は、「革命的プロレタリアートが勝利をうるために必要とする党に、もつとも近づいていた」(レーニン)からである。

理論的な問題においても政治的な問題においてもたえず最大の警戒をせしめていたマルクスとエンゲルスが死んでからは、労働運動における日和見主義者たちは、マルクス主義から革命的内容をはぎとろうと試み、いろいろなブルジョア・イデオロギーを労働者階級のなかにもちこんだ。

ドイツのブルジョアジーが、ドイツ人民を第一次世界戦争に追いやり、一九一八年の革命では科学的社会主義の母国で労働者階級の勝利を妨げることができたことの主要な原因の一つは、ドイツの労働運動における日和見主義勢力の一時的勝利と、それにむすびついたマルクス主義の創始者たちの学説の放棄とにあるのである。

ロシアでは、レーニンが、ボリシェヴィキ党の先頭に立って、マルクス主義の完全な純粹性を回復し、さらに、それを、帝国主義段階への資本主義の移行の新たな諸条件のもとで、マルクス・レーニン主義のまとまった学説に発展させた。これによって、社会主義十月大革命の勝利のための前提がつくりだされた。

ドイツでは、共産党の創立によって、同様に、革命的なマルクス主義戦闘政党的基礎がきずかれた。ドイツ共産党は、マルクスとエンゲルスがドイツの労働運動にのこした革命的遺産をうけついで。テールマンの中央委員会の指導のもとに、ドイツでは、歪曲されていないマルクス主義学説の普及と実現とのための、またマルクス・レーニン主義の基礎のうえでのドイツ労働者階級の団結のための、徹底的な闘争がはじまった。しかし、ドイツの労働運動の不運な分裂を克服し、ファシスト独裁の樹立と第二次世界戦争の惹起とを容易にした帝国主義的反動にたいする団結した

闘争に労働運動を導くことには成功しなかった。

(XVIII)  
世界最初の社会主義大国であるソ連邦は、マルクス・レーニン主義政党的指導のもとで、第二次世界戦争において、それまでのもっとも重い負荷試験に耐えた。ファシスト権力者たちが一二年間にわたって凶悪きわまる手段でその抑圧をほしきままにしたのちに、ドイツのファシズムにたいする榮譽に輝くソヴェト軍隊の勝利によって、マルクス主義もまた、その母国で、新たなこれまでにない興隆を経験した。生きのこった搾取階級とその思想家たちの、マルクス主義を「廃絶し」ようとし、それを「時代おくれの」

「論破された」ものとして宣告しようとする試みは、すべて挫折したし、将来もまた挫折するであろう。なぜならば、マルクス主義を廃絶するためには、労働者階級そのものを廃絶しなければならぬであろうからである。

ドイツの一部では、一九四五年以後、マルクス主義の基礎のうえでの労働者階級の統一がつくりだされ、多大の成果をもってマルクス主義の実現に着手された。マルクスとエンゲルスとレーニンの学説によってその全活動が導かれているドイツ社会主義統一党の指導下に、ドイツ民主共和国の勤労者は、多くの成果をあげながら社会主義を建設している。

西ドイツでは帝国主義的占領国による援助と労働者階級

の分裂の維持とによって、帝国主義的・軍国主義的勢力がその権力をなお維持することに成功しているのであるが、そこでも、マルクス・レーニン主義は、あらゆるテロ手段、禁圧手段にもかかわらず、勝利するであろうことは疑いをいれない。なぜならば、マルクス・レーニン主義は、勤労者が権力をにぎる一つの統一的・平和愛好的・民主的ドイツにおける幸福な生活へのドイツ人民のもっとも深いあこがれの具現だからである。

今日、マルクス・レーニン主義は、すでにその世界変革的支配を地球の四分の一のうえにひろげ、そこでは、人類の三分の一のために、科学的社会主義の不败の学説が、社会主義建設の基準となっている。この社会主義の強大な世界陣営の先頭になっているのがソ連邦であり、ソ連邦の人民はすでに共産主義の明るい高所への移行を遂行している。まだ資本主義が支配している諸国でもマルクス・レーニン主義は、ますます強く勤労者たちの心と頭を獲得し、そして、ただそれだけが人類に破滅、貧困化、恐慌、戦争からの逃げ道をしめすことができるという認識をよびおこしている。

マルクス主義のように被搾取者と被抑圧者とのあいだにひろまった学説は、いまだかつてなかった。マルクス主義の旗のもとに、万国のプロレタリアは団結した。ほかのど

んな学説も、マルクス主義のように、搾取され圧迫されている大衆を独立の行動、積極的な経済的および政治的闘争に導きはしなかった。

(XX)

マルクス・レーニン主義の巨大な、いっさいを克服する学説は、けっして消えることのない導きの星として、共産主義への人類の道を照らしている。

ドイツ語版のこの第一巻は、ソ連邦共産党中央委員会付属マルクス・レーニン主義研究所編集のロシア語の巻に対応している。底本は、現存の原物または写真複製によって検討された。マルクスとエンゲルスによって引用された引用文も、原物を利用できるかぎりでは、同様にして検討された。各労作ごとに印刷のためにもちいられた原資料を付記してある。

マルクスとエンゲルスによって引用された引用文は、判別を容易にするために、小さく印刷される。外国語の引用文と本文にあらわれる外国語とは、脚注で翻訳された。外国語で書かれた論文の翻訳は、再検討されるか、または新たに作成された。

正字法と句読法とは現代化した。これに反して、ドイツ語の原文では、言葉の音韻変化は変えなかった。角括弧

〔 〕のなかの語または語の部分はすべて編集者の手に成るものである。しかし、今日ではほとんどもちいられない略語は、ことわりなしに、省略しない語に改め、明瞭な誤記も、ことわりなしに訂正してある。疑わしい場合には、脚注に原版の書きかたがしめしてある。

マルクスとエンゲルスの脚注は、小さな星印がつけられ、編集者の脚注は、通しケイで本文と区別され、数字が付記してある。

解説として、この巻には巻末注がついているが、それは、本文では、上つきの角括弧内の数字で指示される。そのほか、人名索引、マルクスとエンゲルスの生活と活動の日誌、文献索引、新聞索引、外国語の説明がつくくわえられている。

ドイツ社会主義統一党中央委員会付属  
マルクス・レーニン主義研究所

(岡崎次郎訳)

(XXI)

## ロシア語第二版序文

カール・マルクス・フリードリヒ・エンゲルス全集第二版は、ソヴェト連邦共産党中央委員会の決定によって発行される。

第一三回党大会の決定で発行されたマルクス・エンゲルス全集ロシア語版第一版は、その当時としてはマルクス主義の創始者たちの文献的遺産のもっとも完全な刊行であった。しかし、この版には本質的な欠陥があった。翻訳に多くの歪曲や不正確な点があったほか、マルクスやエンゲルスのものでない論文がいくつかまちがっておさめられていた。その一方で、理論的にも政治的にも非常に興味ふかい多くの著作がぬけていた。第一版には、序文や索引やその他の参考資料に誤りがふくまれていた。

マルクス・エンゲルス全集第二版は、第一版にみられたこれらの欠陥をとりのぞくことを任務としている。

今回の版には、初版にはいっていなかった多くの著作、なかにも『資本論』第四卷(『剰余価値学説史』)の未完成

手稿が収められている。この手稿は、かつてカウツキーによって偽造された形で出版されたが、そこでは多くの点でマルクスの手稿の本文がゆがめられ、その編成がそこなわれていた。この全集には、資料の配列の順序について保存されているマルクスの指示にしたがって、この手稿の全文が収録されている。全集のこの新版には、エンゲルスの筆になる『資本論』第一巻綱要』や、『新ライオン新聞』、『ニューヨーク・トリビューン』、その他の定期刊行物に発表されたマルクスとエンゲルスのかなり多くの論文や、第一インタナショナルにおけるマルクス主義の創始者たちの活動に関係した多くの資料文書が、はじめて収録される。

全集にはじめておさめられる著作の大部分は、これまでに『マルクス・エンゲルス・アルヒーフ』その他のマルクス・レーニン主義研究所の出版物やソヴェトの定期刊行物にロシア語で発表され、またマルクス・レーニン主義研究所の出版物に原語で発表されたものである。マルクスとエンゲルスの若干の論文、文書、演説は、第二版の準備にあたって研究所の手で発見された。

マルクスとエンゲルスの著作の巻別の配置や、各巻のなかでの配列は、それぞれの著作の執筆または発表の日付に従って、年代順になされている。例外は、『資本論』と『剰余価値学説史』にあてられた諸巻である。これらは、統一

と相互の有機的な結びつきとをたもつために、いくぶん年代順の原則からはずれた形でのせられる。マルクスとエンゲルスの往復書簡と第三者への彼らの手紙とが、全集の最後の五巻の内容となっている。

第二版におさめられるマルクスとエンゲルスのすべての著作の翻訳は、検討と校閲を経たものである。

第二版の各巻には、序文と参考資料（注解、マルクスとエンゲルスの生活と活動の日誌、索引）がつけられる。

# (XXII)

今回の版は広い読者層をめあてとしており、マルクスとエンゲルスのすべての著作をおさめたアカデミー版ではない。こういうわけで、第二版には、マルクスの学位論文

『デモクリトスの自然哲学とエピクロスの自然哲学の差異』、エンゲルスの論戦パンフレット『シェリングのヘーゲル論』、『シェリングと啓示』、マルクスの『一八四四年の経済学・哲学手稿』などははいらない。これらの著作はべつに（邦訳では序巻として）出版されるはずである。

マルクス・エンゲルス全集第二版は、30巻<sup>\*</sup>になる予定である。

\* 現在は三六巻三八冊の予定。

\* \* \*

プロレタリアートの偉大な教師で指導者であるマルクス

とエンゲルスの著作は、真の科学的な革命的理論のきわめて豊かな宝庫である。マルクス主義は、プロレタリアートのイデオロギーであり、プロレタリアートの根本的利益の科学的表現であり、資本主義的奴隸制とたたかう、プロレタリアートの精神的武器である。マルクス主義は、人類がつくりだしたすべてのすぐれたものの適法な継承者であり、マルクス主義が成立したことは、哲学、経済学、社会主義思想史における根本的な転換、真の革命をあらわすものであった。

マルクスとエンゲルスは、社会発展の客観的法則を発見して、資本主義の滅亡がさけられず、またプロレタリア革命とプロレタリアート独裁の樹立とを手段とする社会主義制度の勝利がさけられないことを、科学的に証明した。マルクスとエンゲルスは、資本主義社会の首尾一貫した革命的階級であるプロレタリアートだけが、すべての勤労者と被抑圧者を自分のまわりに結集し、彼らをひきいて資本主義にたいする強襲にすすむことができるということを、おしえた。資本主義の墓掘人、新しい共産主義社会の創造者となるという自分の世界的な使命をはたすためには、プロレタリアートは、それ自身の労働者党をもたなければならぬ。マルクスとエンゲルスは、そういう党をつくるために疲れを知らずにたたかった。

## (XXIII)

マルクス主義は生きた革命的学説であって、たえずなく発展し、完成していく。マルクス主義はあらゆる教条主義の敵である。それは、あらゆる時代に有効な不変の結論や公式というものをもとめない。マルクス主義の主要な特質は、革命的理論と革命的実践とを有機的に統一していることである。「われわれの学説は教条ではなく、行動の手引きである」——こうマルクスとエンゲルスはいくたびとなく強調した。その学説の基礎をおいたのちも、マルクスとエンゲルスは、革命の実践や大衆の創造と創意を概括することによって、新しい思想と結論でこの学説を豊かにしながら、ほとんど半世紀にわたってその学説を発展させ、完成していった。

マルクスとエンゲルスの死後に新しい歴史時代——帝国主義とプロレタリア革命との時代がはじまった。労働者階級のまえには新しい複雑な問題が生まれてきた。これらの問題にたいして、マルクス主義の創始者たちがその生前に、直接の、あますところのない答えをあたえることができなかったのは、当然である。マルクス主義を前進させ、新しい時代、プロレタリアートの階級闘争の新しい条件に合せてそれを発展させることが必要となった。しかし、第二インターナショナルの理論家たちはマルクス主義を裏切って、日和見主義者になり、労働者階級にたいする裏切者になっ

てしまった。彼らの一部は、マルクス主義を公然と修正する道をすすみ、他の一部は、口先ではマルクス主義を忠実にまもると言明しながら、実際にはそれを裏切り、マルクスの創造的な学説を死んだ教条に変えてしまった。

この新しい歴史的条件のもとにあって、革命的科学の巨匠でありソヴェト連邦共産党の創立者かつ指導者であるヴラジミール・イリイチ・レーニンは、数多い敵の攻撃からマルクス主義をまもり、擁護し、ロシアと世界の労働運動の経験を概括して、新しい、より高い段階にマルクスの学説をひきあげた。レーニンは、マルクス主義の本質から出発して、マルクスとエンゲルスのすでに古くさくなった若干の命題や結論を、新しい歴史的情勢に適合した新しい命題や結論と躊躇なくとりかえ、マルクス主義を創造的に発展させた。こうして、マルクスとエンゲルスが、独占以前の資本主義の条件から出発して、社会主義革命はある一つの国だけで勝利することは不可能であり、すべての、あるいは大多數の文明国で同時に勝利するほかはないと主張していたのたいして、レーニンは、帝国主義時代には資本主義は経済的および政治的に不均等に発展するという法則を発見して、マルクスとエンゲルスのこの古い公式の再検討をおこなった。レーニンが到達した結論は、新しい条件、帝国主義の条件のもとでは、はじめはいくつかの国、

(XIX)

あるいはただ一つの国でさえ社会主義が勝利することは可能であり、すべての国または大多數の国で社会主義革命が同時に勝利することはありえない、ということであった。

レーニンは、マルクスとエンゲルスの偉大な事業を継続して、帝国主義の経済的および政治の本質の深い科学的分析をあたえた。彼はまた、社会主義革命についての新しい、全面的な理論で労働者階級と共産党を武装した。ソヴェト権力がプロレタリアート独裁の最良の政治形態であることを発見した。社会主義建設と共産主義建設の基本的な諸問題を明らかにした。彼は、地主と資本家の権力をたおして共産主義社会を建設するための決定的条件としての、労働者階級と農民の同盟の偉大な意義を論証した。

レーニンの著作には、プロレタリア革命党——新しい型の党の思想的・組織的・戦術的および理論的基礎が天才的に解明されている。レーニンは、マルクス主義の歴史上はじめて、プロレタリアートの指導組織として、その主要な武器としての党についての学説をつくりだした。この武器がなければ、プロレタリアート独裁をたたかいることも、社会主義と共産主義を建設することも、不可能である。

レーニンの事業の後継者たちは、ソ連邦における社会主義建設のきわめて豊かな経験や現代の国際的解放運動の経験を概括して、新しい歴史的条件に合せてマルクス・レー



ニン主義学説を創造的に發展させ、いくつかの問題において新しい命題で革命的理論を豊かにした。

マルクス・レーニン主義の創造的發展は、ソヴェト連邦共産党の決定や、科学的に基礎づけられ幾十年にわたる闘争によってためされた党の政策のうちに、あざやかにあらわれている。この政策は、社会の物質生活の發展が提出している諸要求を表現し、また歴史の眞の創造者である人民大衆の根本的利益を表現している。ソヴェト連邦共産党の全歴史は、行動するマルクス・レーニン主義である。党がつねに勝利してきたのは、また勝利しつつあるのは、党がマルクス・レーニン主義の学説にたいして忠実だからである。

ソヴェト連邦共産党のきわめて豊かな歴史的経験は、社会の革命的改造のためにたたかっているすべての国の共産党・労働者党を鼓舞する模範となっている。

(XXV)  
人民民主主義諸国における社会主義建設の實踐、資本主義諸国における労働者階級と勤労大衆の闘争の経験、植民地・半植民地における民族解放闘争の経験、これらは、兄弟党である各国共産党・労働者党の決定や、それらの党の指導者たちの著作のなかで理論的に概括されている。これらの決定や著作は、新しい命題や結論でマルクス・レーニン主義を豊かにしている。

ソヴェト連邦共産党とその兄弟党である各国共産党・労働者党は、プロレタリア国際主義の原則を一貫してまもっている。これらの党は、マルクス・レーニン主義学説の純潔を細心にまもり、この学説を創造的に發展させると同時に、マルクス・レーニン主義理論にたいする教条主義的・經文読みの態度と断固としてたたかっている。これらの党は、共産主義者にたいして、マルクス・レーニン主義の創造的品格を理解するよう、個々の定式や引用をならいおぼえるのでなく、マルクス・レーニン主義の古典家たちの偉大な学説の眞の本質を習得するよう要求している。

現代にあつては、レーニンとその弟子であり戦友であるソヴェト連邦共産党や他の国々の兄弟的な共産党・労働者党の指導者たちによってマルクス主義の宝庫にもちこまれた新しいものを習得しないでは、マルクス主義者となることはできない。

マルクス・レーニン主義は、自然と社会の發展法則についての科学、抑圧され搾取されている大衆の革命についての科学、すべての国々における社会主義の勝利についての科学、共産主義社会の建設についての科学である。

マルクス・レーニン主義の偉大な創造的学説は、世界のすべての国の勤労大衆をますますひろくとらえており、幾千万人の旗印となり、歴史の歩みをはやめる強大な物質力